

# 合格体験記

先輩の言葉

## 高知県立大学 看護学部 看護学科 (女子生徒) ①

私は3年生になり、部活が終わった後も、なかなか受験勉強を始めることが出来ませんでした。勉強する習慣もなく、何をすればよいか分からなかったからです。しかし、学校の補習がそんな私を助けてくれました。

夏補習では多くの教科を取っていたこともあり、最低でも一日5時間は勉強することが出来ました。また、模試の復習をしなさいという先生のアドバイス通りにすると、自分の弱点が見つかり、具体的に何をすべきか分かるようになりました。そして、夏休みが終わる頃には苦手だった英語が30点以上も上がり、勉強に対しての意欲を持つようになりました。

ここまでは順調でしたが、秋になりなかなか点数が上がらなくなると、私はもういやという気持ちになりほとんど勉強をしなくなっていました。そこで私が始めたことは、学校に残って勉強をすることです。私は社会科教室で勉強していましたが、静かで、周りが受験生ばかりなのはとてもよい刺激になりました。家では勉強が出来ないという人は、ぜひ学校で勉強するようにしてみてください。

センター試験直前は難しい問題を解くことはやめ、毎日の授業に全力で取り組みました。ここでみなさんにおすすめしたいのは、先生の話をよく聞くということです。ノートをとることばかりに気をとられがちですが、先生方の解説はとても的確で分かりやすいです。しっかりと聞くようにしてみてください。

センター試験本番では今までで一番高い点数を取ることが出来ました。ここで私が直面したのは、受験校はどうか、という問題です。元々候補に挙がっていた学校を推薦で受けるか、新しく自分が行きたいと思った学校を受取るのか。私は後者を選びました。推薦を蹴ったことで絶対に落ちることが出来ないというプレッシャーがありましたが、逆に二次試験を頑張る糧となりました。結果的に合格することができ、あの時自分が本当に行きたい学校はどこなのか、しっかりと担任の先生に伝えることが出来て良かったなど心の底から思っています。

最後に、受験勉強は辛くて苦しいこともありますが、諦めずに続けてください。その努力は合格という結果以外にも様々な場面で生きるはずですよ。後悔のないようにしてください。応援しています。

## 岩手大学 理工学部

### システム創成工学科電気電子通信コース (男子生徒) ②

私は、高校三年生の春まで部活動に所属し、引退後から本格的に受験勉強に取り組み始めました。まず「勉強に近道はない」ということは強く訴えたいです。しかし私は、近道はなくとも王道はあると思っています。では受験勉強における王道とは何か。私は学校の先生に言われたことを言われた通りにやることだと考えます。中には、「先生達は予習だの復習だの、当たり前のことしか指示してくれない。もっと受験の為のアドバイスが欲しい。」と思う人もいるかもしれません。しかし、いったいどれだけの人が、その当たり前のことを当たり前のようになっているのでしょうか。先生の解説をきちんと聞いて、時には分からないところを質問しつつきちんと授業を理解し、問題演習で定着させる、といった愚直な勉強方法が大切になってくると考えています。

また、その中でも、大切だと感じたことを3つ紹介します。

1つ目は、きちんと授業ノートを作ることです。勿論ノートの見直しも大切ですが、先生の解説を理解した後その内容をノートにまとめるという作業は、それ単体でも記憶の定着に繋がります。自分の中で授業ノートは、「センター試験で確実に6割とるための教材」という立ち位置でした。勿論、もっと点を取りたい教科は参考書なども交えて勉強しますが、そもそも授業を疎かにした教科は、僕は伸びませんでした。

2つ目は、模試のやり直しをやることです。自己採点は多くの方がやると思いますが、それだけでは振り返りとして不十分です。やり直しまですることで、「どこの問題を間違えたのか」から「何故その問題を間違えたのか」まで自己分析を深めることが出来ます。また、模試の解説はとても丁寧に書かれています。特に理系科目は、解説をしっかりと読んで、正しい解答を導出過程も含めて書き写すだけでも大きな力になると思います。

勉強続けるためのメンタルと技術を併せ持ち、「この大学に合格したい」「〇〇になりたい」という意志を持ち、粘り強く勉強を続けた人が合格という証を手にすることができるのだと思います。是非頑張ってください。

## 東京学芸大学 教育学部 学校教育系 (女子生徒) ③

私は、国公立大学の公募制推薦制度で第一志望の大学に合格しました。

私は、1年の時から一度も休まず学校に行き、普段の生活をしっかり行うことを努力しました。例えば、授業を真面目に受けて、課題の期限は守り、終礼テストにも手を抜かず取り組みました。特に、定期テストは赤点をとらないことだけでなく上位を目指して、毎回頑張りました。部活動でも同様に、休まず毎日参加したことで、県大会で賞を取った経験もあります。

加えて、ボランティア活動にも興味があったので、1年の時から3年間、ボランティア委員として活動しました。

私が本格的に受験勉強を始めたのは、部活動を引退した5月下旬からです。それから毎日、業後には友人と社会科教室に残って勉強するようになりました。私は家に帰ると長い間ダラダラと過ごしてしまうので、補習のあとの1時間でも、毎日継続することで集中できて、大切な時間だったと思います。

この3年間コツコツ積み重ねてきたことを自分のアピールポイントとして、受験に臨みました。何事も積み重ねて頑張ることで、自分の強みに変わるのだなと思いました。

もう1つ自分の受験について良かった点は、早めに大学について調べ、第一志望を決めていたことです。目標がないまま勉強するより、目標に向けて必要なことを重視して、効率良く勉強する方が、やる気が出て身が入りました。

受験は、小論文とグループ討論面接の2つでした。対策として小論文は、過去問を中心に練習し、一題書いては先生に添削していただき、また同じ題を書き直すことを繰り返しました。グループ討論は、色々な人に練習に参加してもらい、様々なテーマを話し合いました。生徒だけでなく、先生方にも手伝っていただきました。何回か練習していくうちに相手の話の聞き方や、色々な人の良いところを吸収して、自分の中に取り入れていきました。

長くなりましたが、いま目の前にあるやれることをやりきることが、私は大切だと思います。受験生は色々な事が制限されて、嫌になってしまうこともあると思いますが、周りの人を大切にして、自分のことも大切にして、この1年を頑張ってください。これを読んでもくださったあなたの進路実現を心からお祈りしています。

## 藤田保健衛生大学 保健衛生学部

### リハビリテーション学科（女子学生） ④

私は私立受験に必要な科目を重点的に勉強していました。それでも遅い時期に国公立大学を視野に入れることができたのは、センター試験の結果が総合的に良かったからです。その要因として挙げられるのは、学校生活における日々の勉強を大切にしていたことです。

私は一年生のころから、どの教科においても定期テストや小テストを頑張ってきました。テストで良い点を取るために、毎日の授業で先生の話をお聴くことに専念していました。もう一つの要因として、科目をなるべく絞らずに、受験勉強をしていたことが挙げられます。私は、自分の受けたい学科の、選択科目の中にある教科だけに早いうちに絞らずに、必要になる可能性のある科目はすべて勉強しておくようにしていました。その結果、センター試験でも、勉強しておいた科目で予想以上に良い点数を出すことができ、全体の総合得点をあげることにつながりました。これらのことから、受験において私が一番大切だと思うことは、日々の学校生活において目の前のことに全力で取り組むこと、そして様々な場合を想定し行動できるようにすることだと思います。最後に具体例として、自分自身が苦手だった英語の勉強法を紹介します。私は受験勉強の最初、文法が理解できていなかったのも、難しい長文なんて読めるようにならないと思っていました。でも、文法書と長文の問題を毎日継続することで、文の構造を理解し、流れがつかめるようになって、最終的に長文で点数が取れるようになりました。英語はスランプに陥りやすく、ぜんぜん伸びてないと思ってしまう時もありますが、続けることで必ず実力はついていくので、諦めないことが大切です。

## 愛知学院大学 総合政策学部

### 総合政策学科（男子生徒） ⑤

今これを読んでいるあなたは、受験について関心がある真面目な生徒だと思います。おそらくインターネットで「大学受験 勉強法」とかそんなことを検索したことがあるでしょう。「授業を大事に」とか「十分な睡眠」とか「自分に合った勉強法」、「苦手科目の克服」などが出てきて、なるほどと思ったことでしょう。ですが、僕が受験勉強をしてきた中で最も重要だと思ったことは、勉強に対する意欲、すなわち「やる気」です。そこで僕からはメンタル面について記していこうと思います。

初めに、あなたはすでに第一志望の大学を決めましたか。もちろん「〇〇大学の〇〇学部に行き、～をやりたい」という答えがあれば素晴らしいです。ですが、ここまで明確な目標が定まっている人は少ない

はずです。ですから、もっと単純に「みんなを見返してやる」「友達と一緒に合格する」「みんなからかっこ良く思われたい」など何でも良いので、大きな目標を一つ掲げてください。要は自分の中に絶対に折れることのない気持ちの柱を立てればいいのです。

勉強をしていく中で、つらいこと、苦しいことはあると思います。僕も模試の結果が酷くて一週間勉強をしなかった時があります。見たくもないテレビを見て、スマホをいじってただらだと過ごしていました。そこから得たものは、勉強から逃げた罪悪感と焦りだけでした。スランプは誰にでも起こり得ると思います。そんな時にこそ、自分で決めた柱をもう一度言い聞かせて勉強をしてみてください。

繰り返しになりますが、いくら塾に通っていても、学校の補習を受けていても、やる気がなければ無意味です。先生方は裏切らないし、友達は励ましてくれます。結局はすべて自分次第です。

最後に、いつ、いかなる時も、受験生は完全に勉強の手を止めてはいけません。どれだけ苦しくても、どれだけ辛くとも、どれだけ偏差値が低くとも、自分を信じてやれば、結果はついてきます。例え、ついでなくても、やりきれば結果に納得ができます。

あなたが笑顔で新しいステップに進むのを祈っています。

## 公立春日井小牧看護専門学校 (女子生徒) ⑥

私は1年生の頃から家庭学習時間が短いと言われ続けていました。3年生になって少し時間が伸びたとはいえ、周りと比べると少なく、もっと勉強しておけばよかったと思っています。そんな私が第一志望としていた学校に合格できたのは、日ごろの授業や補習があったからだと思います。

まず、日ごろの授業はただなんとなく聞くのではなく、今何を学んでいるのか意識すると良いと思います。私は先生の言っていることを頭の中でくり返すことで確実に理解しながら授業を受けるようにしていました。また、学習とは関係のなさそうな先生のジョークや身振り手振りにも勉強のヒントが隠されています。「この公式習った時の先生のギャグちょっと面白かったな」「この単語、先生が変な動きしながら教えてくれたな」など思い出すキッカケになったり印象に残りやすくなるからです。

次に、補習の大切さについてです。看護専門学校に進学すると決めていた私にとって看護数学の補習はとても力になりました。n進法などの範囲や看護専門学校の入試で出やすい分野をしっかりと学ぶことができたからです。また、専門学校は学校ごとに問題形式が大きく異なるため、補習で教えあったり質問しながら過去問を解くことで当日の安心や余裕につながります。補習は、授業より受験を意識しやすく、目標をもって勉強に取り組むことができるので良かったと思います。

受験は最後まで何が起きるか分かりません。私は滑り止めとして考えていた学校が不合格で、滑り止めに落ちたなら第一志望なんて受かるわけがないと思っていました。しかし、母に「悪い運はこれで使い果たしたから他の学校は受かる」と言われ、根拠が無いと思いながらも信じて頑張ってみようと思えました。その結果、本当に合格できたのです。本当に何が起きるか分からないと実感しました。

受験勉強は先が見えず、苦しいと思いますが、受験期に身につけた頑張る力は進学しても就職しても力になります。私はその力がまだまだ弱いのでこれから苦勞して身につけていくことになると思います。みなさんは私と同じ後悔をしないよう、頑張ってください。応援しています。

## 中部美容専門学校 (女子生徒) ⑦

「大学に行ける頭がないからとりあえず専門学校に行こう。」この考えをしている人がいたらもう一度進路について考えてみることを私はおすすめします。軽い気持ちで入学した人はやめる率が高いと実際に聞いたことがあります。大学や就職も同じように、目標や理由をしっかりと持つことは第一に大切な事だと思いました。

私が専門学校への進学を決めてからは、資料収集やインターネットでそれぞれの学校の違いを探す事から始めました。資料では良い情報を多く知る事が出来ませんが、オープンキャンパスに参加したり、インターネットでの口コミの方が私自身参考になりました。メリットとデメリットが分かり、自分に合った学校を選ぶ事が可能です。また、高校生対象の大会にも出場しました。一人で何かに挑戦するのは不安ですが、学校や先輩方の雰囲気の間近で感じられたり、入学してからしか学べない技術も一足先に体験出来るので参加して間違いないと思います。

受験対策として、私は面接と作文だったので、自分がその学校になぜ行きたいのかを思う限り書き出していきました。面接では、文をまるごと覚えるのではなく、要点ごとに覚えて話すとつまったりしません。作文対策としては、表現力を上げるために同じ意味の言葉を様々な言葉で表せるようにしていました。本番では緊張すると思いますが、落ち着いて自分の思いを先生方に精一杯伝えれば良い結果になると思います。

合否が出た後はとても気が緩みます。しかし忘れてはいけないのが、これから受験に挑む仲間がいるという事です。私は合否が出た後の定期テストも大学受験の人たちと学校に残り勉強していました。ここで気を抜いてしまうと卒業出来なくなります。卒業が出来なければ合格も取り消しになり、今までの努力が水の泡となってしまいます。「合格はゴールではない。」というのは本当にその通りだと思います。新しい進路に向けて今出来る事を見つけてください。受験は仲間や先生、家族の支えがあつての乗り越えられるものだと思います。感謝の気持ちも忘れないでください。

新しい事に挑戦するという事はとても大変で辛いと思いますが、仲間とともに諦めない強い気持ちで頑張ってください。応援しています。

## 一般企業就職 (女子生徒) ⑧

私は春日井東高校に入学したとき普通科だったので自分は大学に進学をするのだと思っていましたが、1年生の2学期あたりから自分の進路を考え始めるようになると、家庭の事情もあり、進学だけではなく、就職ということも視野に入れて進路を考えていきました。2年生に上がったら、進学ではなく就職という道に進もうと思いました。理由は、大学に入っても学びたいことがなく、早く社会に出てみたいと思ったからです。それからは就職にむけて資格をとったり、自分に合う仕事を探したりしました。3年生になって、本格的に求人票や会社からの資料を見て、自分が将来楽しく働けそうな所を探しました。面接が決まると面接の本を読んだりして面接に備えました。内定をもらったときはとても嬉しかったです。それからは学校のテストや授業を頑張ろうと努力しました。

高校3年間はとてもあっという間です。自分のやりたいことが何かということ、きちんと自分の意思で決めることがとても大切です。頑張りすぎずにときどきは息ぬきも必要です。自分の体調にも気をつけてください。就職においても、体調管理をして学校をなるべく休まないこと、あたりまえのことをあたりまえにできるように社会の常識を身につけていくことが大切だと思いました。